

柳川市立小・中学校の今後の在り方について(答申案)に対するご意見とその回答

意見	ページ	意見等の該当箇所	意見等の概要	回答
意見1	1	1. はじめに 「適正規模を優先する小学校の統合は、時期尚早」	日本全体が人口減少問題を抱えており、柳川市においても、人口が減少し、超少子高齢化社会を迎えています。小学校の統合は、時期尚早ではなく、緊急の課題であります。財政にゆとりがあればいいのですが…。	ご意見ありがとうございます。 「適正規模を優先する小学校の統合は、時期尚早」というのは、平成22年8月18日に設置された前回の柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会が平成23年12月22日に教育委員会に対して答申した内容でございます。本検討委員会では、学校の適正規模・適正配置の実現は必要であり、そのためには、学校再編を基本として進めていくことが望ましいと考えております。
意見2	1 8 14	1. はじめに 「柳川市の未来の子どもたちにとってより良い教育環境」 3. 柳川市がめざすべき教育に応えうる学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (1) 適正規模・適正配置の基本的な考え方 ③適正規模・適正配置の基本手順 「適正化までの期間の目安」 4. おわりに 「10年後、20年後に柳川市に生まれ育つ未来の子どもたちの立場に立って」	「前回委員会」でも現在と同様の問題が認識されていましたが、10年後に再検討となり、今回も適正化までに10年近くの時間が必要とされています。教育の機会均等が約束されない状況が20年以上続くことを憂慮しています。中学校を3年以内、小学校を5年以内に再編するべきです。	ご意見ありがとうございます。 適正化までの期間の目安につきましては、ご指摘のとおり、今後の状況を考えますと、できるだけ早く進めてもらうことは必要であると考えておりますが、一方で保護者や地域住民への説明会等を通して、手法や検討期間等の情報を丁寧に発信し、共通理解を図りながら進めることも重要であると考えておりますので、現行のままとさせていただきます。答申では、柳川市全体の事業計画の作成後、完了を8～9年以内を目処に、段階的に進めていくことが適当であるとしておりますが、例えばイメージ図にある第1段階の再編等につきましては、3～4年での完了が望ましいと考えており、第2段階以降は並行して進めていく場合も考えられます。最終的には、学校再編等の具体的な方策については、教育委員会において、今後1～2年以内を目処に作成する必要があると考えております。
意見3	3	2. 柳川市がめざす学校づくりに向けて (1) 柳川市の学校の現状 ③施設の建築年度と老朽化 「建築年度の古いものが多く、老朽化が進んでいるため、現在も改修や維持・補修に多額の費用がかかっています。…予想されています。」	この文章から、財政にゆとりがあるとは考えられません。費用が膨らみ、人口は減るという構造。経営者ならば、やはり統合を力強く推し進めていくべきだと思料致します。損益、貸借をしっかりと見ていくべき。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、学校の適正規模・適正配置の実現は必要であり、財政面からも学校再編を基本として進めていくことが望ましいと考えております。
意見4	3 10	2. 柳川市がめざす学校づくりに向けて (2) 柳川市の学校の課題 ①現状の中に見える課題・問題点 【共通】 《施設・設備》 「25校すべての～予算確保が難しく」 3. 柳川市がめざすべき教育に応えうる学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (4) 教員について 「小規模校における学級数に応じた教員の配置基準～難しい」	多様化する教育内容に対して、設備更新の資金不足、教員の人材難と学校経営が危惧される状況を改善するために、早期に学校を集約して運営する方向性を出したほうがよい。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、教育委員会は、答申にも記載しております柳川市の学校の課題をしっかりと把握し、課題解決に向け、学校教育の充実と児童生徒のより良い教育環境を整備する適正な学校規模・学校配置を実現するために、学校再編を基本として進めていくことが必要であると考えております。最終的には、学校再編等の具体的な方策については、教育委員会において、今後1～2年以内を目処に作成する必要があると考えております。
意見5	4	2. 柳川市がめざす学校づくりに向けて (2) 柳川市の学校の課題 ①現状の中に見える課題・問題点 【小学校】 《教員》 「教育課程における…～多忙化している。」	課題が明確になっている。ではどうするのかを考え、実行へ移していかなければなりません。教員は声を上げにくい立場だと思料致します。現場は疲弊していると考えられます。今こそ地域の力、行政の力をもっと活用すべき。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、教育委員会は、柳川市の学校の課題をしっかりと把握し、課題解決に向け、答申にも記載しております柳川市がめざすべき教育に応えうる学校づくりに真摯に取り組んでいただきたいと考えております。
意見6	4	2. 柳川市がめざす学校づくりに向けて (2) 柳川市の学校の課題 ①現状の中に見える課題・問題点 「【中学校】」	サッカーや男子バレーは、小学生ジュニアチームでせっかく頑張っても、中学校に受け皿がないと、続けたくても続けられなくなるので、柳川市合同チームを作って指導してもらえたらありがたいと思っています。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、教育委員会は、柳川市の学校の課題をしっかりと把握し、課題解決に向け、多様な部活動等、様々な学校教育活動の充実を図るうえでも、答申にも記載しております望ましい学校規模・学級規模を含めた柳川市がめざすべき教育に応えうる学校づくりに真摯に取り組んでいただきたいと考えております。

柳川市立小・中学校の今後の在り方について(答申案)に対するご意見とその回答

意見	ページ	意見等の該当箇所	意見等の概要	回答
意見7	4	2. 柳川市がめざす学校づくりに向けて (2) 柳川市の学校の課題 「②今後予測される状況」	生徒減少は、市民の所得、婚姻、会社安定に依る。附近に中小企業があり、仕事の供給が必。税込減で、公共施設改善は不可。学校は市の中心地の1つに集約する。学校設備は、企業に支援して貰う。企業は社会資源を利用しているから、その反対給付として。	学校再編等の具体的な方策については、教育委員会において、今後1～2年以内を目処に作成する必要があると考えております。教育委員会は、児童生徒の減少や財政面等、柳川市の学校の課題をしっかりと把握し、課題解決に向け、答申にも記載しております柳川市がめざすべき教育に答えうる学校づくりに真摯に取り組んでいただきたいと思いますと考えております。
意見8	5	2. 柳川市がめざす学校づくりに向けて (3) 柳川市がめざす学校像 ◎めざしたい学校像 「確かな学力」	「確かな学力」について、高校、大学へと進学してショックを受けました。大学のクラスメートには、SSH指定校や進学指導特別推進校の出身者もあり、「確かな学力」の差を肌で感じ取りました。学習意欲、学びの質・スピード、圧倒的でした。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、教育委員会は、「柳川市がめざす学校像」の「確かな学力」の育成を含めためざしたい学校像の実現に向けて、真摯に取り組んでいただきたいと思いますと考えております。
意見9	7	3. 柳川市がめざすべき教育に答えうる学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (1) 適正規模・適正配置の基本的な考え方 ①望ましい学校規模・学級規模 【柳川市における小中学校の適正規模】 望ましい学級規模 「小学校1学級あたり25人程度」 「中学校1学級あたり30人程度」	○小学校1学級あたり20人程度 ○中学校1学級あたり25人程度 (下線部訂正)	ご意見ありがとうございます。 望ましい学級規模につきましては、数字を訂正する理由が記載されておられませんので、現行のままとさせていただきます。
意見10	8	3. 柳川市がめざすべき教育に答えうる学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (1) 適正規模・適正配置の基本的な考え方 ③適正規模・適正配置の基本手順 「柳川市全体の事業計画を教育委員会において、今後1～2年以内を目処に作成する」	柳川市公共施設等総合管理計画による施設保有量の削減目標、統廃合した場合の災害時の避難場所確保、跡地利用、地域コミュニティ拠点の整理、地域コミュニティ拠点の機能、中心市街地における観光駐車場確保や集客施設誘致、柳川城再建の可能性なども含めて、他部署とも連携し、市全体の計画として学校再編を検討してもらいたい。財政状況を踏まえ、今後様々な教育環境等の整備が行き届く範囲での学校配置を検討してもらいたい。	ご意見ありがとうございます。 学校再編等の具体的な方策については、教育委員会において、今後1～2年以内を目処に作成する必要があると考えております。今回頂戴したご意見は、学校の適正規模・適正配置だけを考えるのではなく、他部署とも連携し、市全体を見据えた学校の適正規模・適正配置の実現に関するご提言として承ります。
意見11	8	3. 柳川市がめざすべき教育に答えうる学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (1) 適正規模・適正配置の基本的な考え方 ③適正規模・適正配置の基本手順 「適正化までの期間の目安は、事業計画作成後、8～9年以内を目処に、段階的に進めていくことが適当であると考えます。」	適正化までの期間の目安は、事業計画作成後、4～5年以内を目処に、段階的に進めていくことが適当であると、期間短縮を提言します。近隣の大牟田市、みやま市、大川市等の学校再編状況と比較すると、かなり遅い進め方である。今後の少子化を見込めば、将来の児童生徒のために、より良い教育環境と充実した学校教育を実現しておくことは、可能な限り急ぐべきであると思う。また、資料の中には、現状の学校が抱える課題や問題点が多く記載されており、それらを解消するためにも、他市を参考に取り組むべきだと思う。	ご意見ありがとうございます。 適正化までの期間の目安につきましては、ご指摘のとおり、今後の状況を考えますと、できるだけ早く進めてもらうことは必要であると考えておりますが、一方で保護者や地域住民への説明会等を通して、手法や検討期間等の情報を丁寧に発信し、共通理解を図りながら進めることも重要であると考えておりますので、現行のままとさせていただきます。答申では、柳川市全体の事業計画の作成後、完了を8～9年以内を目処に、段階的に進めていくことが適当であるとしておりますが、例えばイメージ図にある第1段階の再編等につきましては、3～4年での完了が望ましいと考えており、第2段階以降は並行して進めていく場合も考えられます。最終的には、学校再編等の具体的な方策については、教育委員会において、今後1～2年以内を目処に作成する必要があると考えております。

柳川市立小・中学校の今後の在り方について(答申案)に対するご意見とその回答

意見	ページ	意見等の該当箇所	意見等の概要	回答
意見12	8	3. 柳川市がめざすべき教育に応えうる学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (1) 適正規模・適正配置の基本的な考え方 ③適正規模・適正配置の基本手順 「早期の対策を必要とする学校を優先して検討すること。」	今後も施設の改修や維持・補修にさらに多額の費用がかかることが予想されるなら、特に直近10年で大規模な修繕等が必要な学校についても優先的に検討し、設備投資に無駄が生じにくいよう取り組んでもらいたい。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、学校の適正規模・適正配置につきましては、施設等にかかっている財政面の負担についても考慮する必要があると考えており、当然、早期の対策を必要とする学校には、学校施設の老朽化についても含まれていると考えております。
意見13	9	3. 柳川市がめざすべき教育に応えうる学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (3) 新しい学びへの対応 「①多様化している子どもたちへの支援」	子ども達の好きな遊びと言えば「ゲーム、スマホ、メディア」が挙げられます。これは、答申案にもある「基本的な学び」を妨げる要因の1つとされています。幼い頃からの過剰なメディアとの接触は、後に、心と身体のアンバランス、コミュニケーション能力の低下、人格の問題、不登校、引きこもり、ニートや犯罪事件に関連すると考えられています。メディアとの接触の低年齢化が進む原因の1つは、私達保護者にもあると思います。両親共働きが普通の世の中です。親は(私も含め)、日々時間に追われ、つい子どもにゲームを与えてしまうのです。その方が自分達が楽だからです。子どもの生活の一部となったゲームは、切っても切れないものとなり、ほとんどの子どもは、その世界で遊ぶのが普通になり、その先にはいじめや仲間外れの引き金にもなっています。残念ながら、10年以上前から子どもとゲームの問題は解決しません。他の要因として、子どもの居場所があると思います。放課後、子どもが遊べる場所はどこでしょうか？柳川市には、学校を解放してくれている所もあります。親としては、放課後、校庭や遊具で遊べる事ほど安心できるものはありません。人気のない公園や神社の境内で幼い子どもだけで遊ばせられる程、今は安全ではないからです。 福岡市での取り組みです。既にご存知と思いますが、参考になればと思います。 https://www.city.fukuoka.lg.jp/kodomo-mirai/k-ikusei/child/waiwaihiroba.html 「子どもが安心して過ごせる(遊べる)場所をつくる」これこそが、社会で生きる学力、自分の身を守る力、豊かな人間性、正義感や公正さを重んじる心、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心、人権を尊重する心、自然を愛する心(答申案引用)を培えることにつながると考えています。放課後、外で安心して遊べる場所があったり、日常的にプレーパークが行われて、親子で自然に触れる機会が今より増えれば、子どもの育ちももっと違って行くはずです。ゲーム機を離して遊ぶ場がないから狭い世界になってしまう。発散させる場所がないから人を攻撃してしまう。人間相手に、自然相手に、思い通りにならない事、自然の豊かさを肌で感じるのを分かるようになれば、きっと子どもも大人も、もっと人間らしく生きて行けそうな気がします。P5のめざしたい学校像にもつながると思います。子どもを育てやすくないから、柳川市は子どもの数が減る。これに尽きると思います。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、子どもの育ちに外で遊ぶことの重要性は理解しております。また、子どもが安心して思いっきり遊べる場所が少なくなっている現状であることも認識しております。子どもの遊び場については、「(9)施設整備面での充実(施設の複合化)」のところで少し触れておりますが、教育委員会は、答申にも記載しております柳川市がめざすべき教育に応えうる学校づくりに真摯に取り組んでいただきたいと考えております。今回頂戴したご意見は、学校の適正規模・適正配置の実現だけでなく、「子どもが安心して過ごせる(遊べる)場所をつくる」ことが、答申にも記載しております「柳川市がめざす学校像」の実現に繋がるとのご提言として承ります。
意見14	9	3. 柳川市がめざすべき教育に応えうる学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (3) 新しい学びへの対応 ①多様化している子どもたちへの支援 「学校生活や家庭生活に起因する不登校児童生徒の増加」	学校生活や家庭生活に起因する不登校児童生徒、 <u>学習やコミュニケーションに</u> <u>つまずきがある発達障害の児童生徒</u> の増加(下線部挿入)	ご意見ありがとうございます。 ご指摘の箇所は、「②特別支援教育への対応」に含めて記載していると考えておりますので、現行のままとさせていただきます。

柳川市立小・中学校の今後の在り方について(答申案)に対するご意見とその回答

意見	ページ	意見等の該当箇所	意見等の概要	回答
意見15	9	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (3) 新しい学びへの対応 ①多様化している子どもたちへの支援 「・適応指導教室～適切な相談、指導及び援助など、 <u>早期に在籍校への復帰に向けた取り組みを充実させる。</u> 」	・適応指導教室～適切な相談、指導及び援助などの取り組みを充実させる。 (左記下線部省略)	ご意見ありがとうございます。 省略の箇所は、第2次柳川市総合計画後期基本計画を参考にした文言ですので、現行のままとさせていただきます。
意見16	9	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (3) 新しい学びへの対応 「①多様化している子どもたちへの支援」	・発達障害の児童生徒への援助として「通級教室」の取り組みを充実する。 (追加)	ご意見ありがとうございます。 通級指導教室の取り組みにつきましては、まずは、設置できていない中学校に設置することを優先すべきであると考え、「②特別支援教育への対応」に記載をさせていただいておりますので、現行のままとさせていただきます。
意見17	10	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (3) 新しい学びへの対応 「③外国語教育」	外国語は特化し、大分のアジア大学等の学生に支援してもらおう。アジア人観光客は全て英語が話せる。一方市民はダメだ。将来、インド・中国への出稼に行くも英語が必須。耳で聴くこと、幼児の話せるのと同様だ。	学校再編等の具体的な方策については、教育委員会において、今後1～2年以内を目処に作成する必要があると考えております。教育委員会は、外国語教育などを含め、柳川市の学校の課題をしっかりと把握し、課題解決に向け、答申にも記載しております柳川市がめざすべき教育に込める学校づくりに真摯に取り組んでいただきたいと考えております。
意見18	10	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (4) 教員について 「年齢構成がアンバランス」	人事が上手くいっていないような印象を受けた。今後の学校づくりをしていくためにも、人事に関する課題の抽出と対応策の検討が必要ではないか。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、教育委員会は、柳川市の学校の課題をしっかりと把握し、答申にも記載しております柳川市がめざすべき教育に込める学校づくりに真摯に取り組んでいただきたいと考えております。
意見19	10	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (4) 教員について 「多忙化している教員の校務の仕事量を平準化」	教育環境等の充実、多様化している子どもたちへの対応、地域との協働による学校づくりなど、教員の仕事量増加が懸念されるのに対し、校務の平準化に関する内容が弱い印象を受けた。学校の再編が中長期的な計画であるのに対し、サービスの充実と校務の平準化をどのように進めるのか。教員への過度な負担を強いることなく、教材研究や授業準備等の時間を十分にとれるよう進めてもらいたい。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、教育委員会は、柳川市の学校の課題をしっかりと把握し、答申にも記載しております柳川市がめざすべき教育に込める学校づくりに真摯に取り組んでいただきたいと考えております。
意見20	11	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 「(5) 地域との協働関係を生かした学校づくり」	住民との交流、災害時の避難先としては有益。市の行事で以前活用していた。有意義だった。通常手入りすれば生徒を身近にみる。60メートルの台風、8メートル水嵩でも鉄筋だから安全だ。肢体不自由老人のみの地区で交流にムリある。	学校再編等の具体的な方策については、教育委員会において、今後1～2年以内を目処に作成する必要があると考えております。教育委員会は、柳川市の学校の課題をしっかりと把握し、課題解決に向け、答申にも記載しております柳川市がめざすべき教育に込める学校づくりに真摯に取り組んでいただきたいと考えております。

柳川市立小・中学校の今後の在り方について(答申案)に対するご意見とその回答

意見	ページ	意見等の該当箇所	意見等の概要	回答
意見21	11	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (5) 地域との協働関係を生かした学校づくり 「コミュニティ・スクールは～地域のニーズを的確かつ機動的に反映させることを可能とする」	小中学校教育に求める地域のニーズは、心身共に健全な子どもたちの成長であり不変です。家庭や地域の役割を明確にし、学校教育と一線を画す必要があります。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘のとおり、子どもの健全育成を図ることは重要でございます。学校、家庭、地域にはそれぞれの役割があり、地域の子どもは地域で学び、地域で育てる環境づくりを基本に、学校、家庭、地域社会が協力関係を築き、連携した学校づくり、地域とともにある学校づくりが必要であると考えておりますので、現行のままとさせていただきます。
意見22	11	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (6) 小中一貫校・義務教育学校(※)の導入について 「特に地域の児童生徒数が少ない場合は、小中学校段階を一体的に捉えて一定の児童生徒数を確保する」	中学教育を受けられる学校が増えるということか。教員や設備投資の分散にも繋がるので、全体計画における位置付けを十分に検討してもらいたい。	ご意見ありがとうございます。 小中一貫校が教員や設備投資の分散に繋がるとは考えておりませんが、小中学校の教育課程や教育活動等、これまでの学校運営のあり方を大きく変える形態になりますので、教育委員会で小中一貫教育の教育的意義と課題について丁寧に研究し、小中一貫教育の内容や方法は様々であるため、どのようなものが本市にとって最適であるかについて検討する必要があると考えております。その上で、小中一貫校・義務教育学校の導入については、教育委員会で柳川市全体の事業計画を策定する中で、十分に検討してもらいたいと考えております。
意見23	13	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (8) 通学区の一部弾力化(学校の選択が可能な体制)について 「小規模特認校制度」	「小規模特認校制度」について…学習やコミュニケーションにつまずきがある発達障害の児童生徒にとっては望ましい制度であると思います。	ご意見ありがとうございます。 小規模特認校制度につきましては、本検討委員会でもメリット・デメリットなどを審議し、少人数での教育の良さを生かした、きめ細やかな指導や特色ある教育を行うことができる小規模校の必要性も考慮して、複式学級の解消等の選択肢の一つとして検討する必要があると考えております。
意見24	13	3. 柳川市がめざすべき教育に込める学校づくり ★今後の学校づくりに向けた基本方針 (8) 通学区の一部弾力化(学校の選択が可能な体制)について 「小規模特認校制度」	小規模特認校制度は課題や方針に対して逆行する取組みにならないか。特定の学校を残すような意図でもあるのか。	ご意見ありがとうございます。 小規模特認校制度につきましては、本検討委員会でもメリット・デメリットなどを審議し、少人数での教育の良さを生かした、きめ細やかな指導や特色ある教育を行うことができる小規模校の必要性も考慮して、複式学級の解消等の選択肢の一つとして検討する必要があると考えております。
意見25	14	4. おわりに 「学校再編等を検討する際には、小学校が地域コミュニティの中核であることを考慮し」	地域コミュニティの中核は公民館(コミュニティセンター)であり、小学校教育を犠牲にするべきではない。	ご意見ありがとうございます。 本市では、全ての小中学校で学校運営協議会を設置してコミュニティ・スクールを導入するとともに、各地区には地域の拠点となるコミュニティセンターが整備されており、各小学校区で地域コミュニティが形成されております。学校再編等の具体的な方策については、教育委員会において、今後1～2年以内を目処に作成する必要があると考えておりますが、その際には、自治会や子ども会などのコミュニティ活動と通学区の整合性を保ち、原則、現在の小学校区を基本として分断することなく、柳川市全体の事業計画を策定していただくようにこの文言を入れておりますので、現行のままとさせていただきます。

柳川市立小・中学校の今後の在り方について(答申案)に対するご意見とその回答

意見	ページ	意見等の該当箇所	意見等の概要	回答
意見26	14	<p>4. おわりに</p> <p>「子どもたち一人一人が社会の変化に対応し、次の時代を担う「生きる力」を育み、望ましい人間形成を図っていくうえで、学校教育の充実と結びつけたこれからの学校づくりはどうあるべきかという視点に立ち」</p>	<p>この観点に立ち、子どもたちにとって、どのような教育が生きる力を育んでいくかを考えてみました。教育現場では、先生たちの多忙化の上に授業はICT化に対応していく方向性になりつつある。そして個々を大事にしていきたいと思います。今のカリキュラムが変わらなければ、カリキュラムや指導計画という枠にあてはめてしまう教育になり、先生が子ども一人一人に向き合いたくてもできない現実があります。統廃合や義務教育学校など、形だけが変わっても本質は変わりません。もっと先生たちが一人一人に向き合えるように、子どもが自ら学ぶ意欲を高め、その子どもらしく伸びていくような多様性に配慮できるようなシステム作りを考え、『探求』や『対話』を中心としたカリキュラムに構築していくべきだと思います。そうすれば、相乗効果で学力も伸びて、広がっていくのではないのでしょうか。『ピンチはチャンス!』です。少子高齢化で過疎化が進んでいる柳川だからこそできる、柳川市から『子どもが自ら学んでいく生きる力を育む教育』を発信していきたいです。また、子どもたちの『生きる力』を育む土台作りは乳幼児期から始まります。乳幼児期に五感を感じながら遊び、生きる力を育むことができる地域の子育て支援センター、幼稚園、保育園、子ども園。その土台の上に学校での生きる力を育む教育、そして放課後事業として福岡市のわいわい広場のように遊びを大切にした取り組み、柳川市全体でまちづくりを通して『子どもの生きる力』を育んでいきたいです。2020年新学習要領では、「主体的・対話的で深い学び」が謳われ、「カリキュラムマネジメント」の確立が求められています。黙って座って話を聞くのではなく、『探求』をカリキュラムとした方向へと動き出そうとしています。今までの教育のやり方ではなく、新たな教育の取り組みをし、最先端の教育を柳川から発信していきませんか。探求をカリキュラムとした学校は長野県軽井沢風越学園や公立小学校である長野県伊那小学校でも行われています。現実的に無理ではなく、どのような条件が整えば可能になるかをぜひ、考えてほしいと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「4. おわりに」に書いているように、本検討委員会としても、今後教育委員会において、子どもたち一人一人が社会の変化に対応し、次の時代を担う「生きる力」を育み、望ましい人間形成を図っていくうえで、学校教育の充実と結びつけたこれからの学校づくりはどうあるべきかという視点に立った教育環境が整備されることを期待しております。</p>